



2022JR総連春闘勝利！ 「54歳原則出向」を利用した労働運 動の否定を許さないぞ！

第27回地本委員会開催！

スローガン

- 一、2022JR総連春闘勝利！ 定期昇給獲得！ ベア6,000円獲得！ 夏季手当3.5ヶ月獲得！ コロナ慰労金・休暇獲得！ コロナ禍の労働者への責任転嫁を許さず、地域の仲間とともに、要求実現に向けて職場から闘おう！
- 一、憲法改悪阻止！ あらゆる武力・軍事行動反対！ 権力者の横暴を許さず、平和を希求する仲間を地域、職場から一人でも多く拡大しよう！
- 一、労基法違反、就業規則違反を許さず、職場の闘いを基礎に 第三者機関を活用した闘いに勝利し、労働者の権利を守り抜こう！
- 一、労働運動を否定する「54歳原則出向」を利用した組織破壊攻撃を粉碎しよう！
- 一、全ての闘いを組織拡大につなげよう！

2月27日、地本は新大阪において第27回地本委員会を開催しました。委員会は短時間、参加者制限の感染防止の対策を講じての開催でした。議長は、強制出向裁判の原告である下茂さんが委員会をリードしました。

主催者を代表し、笹田委員長から「54歳原則出向を利用した労働運動の否定を許さない。コロナ禍を口実とした労働者への責任転嫁を許さず、2022JR総連春闘を本部と連帯し満額獲得を目指して闘う。第三者機関を活用した全ての裁判の勝利を目指そう。」と挨拶がありました。8名の委員から職場からの力強い闘いの報告と質疑があり、執行部の答弁、浦谷書記長の総括答弁によって、提起された議事とスローガンを全員で採択し終了しました。



委員会では、東海労本部の団交団に対する檄と、JR西日本会社において、乗務員の出場遅延に伴う懲罰は行わないとする報道がありましたが、JR西労組員が不当な賃金カットの処分を訴えている裁判の対策として公表したものであり、社会を欺く「運用変更」を許さず、真の安全を勝ち取る闘いと裁判勝利を目指す連帯の檄を取り組みました。



諦めない、流されない仲間を広めるために職場から奮闘しよう！

【裏面に、委員会宣言】

委員会宣言（案）

本日、私たちは新大阪丸ビルにおいて第27回定期地本委員会を開催し、2022春闘をはじめとした当面する闘いの意思統一を行った。

私たちは2022 J R 総連春闘を J R 総連そして職場の仲間と共に闘い抜く！

私たちはコロナ禍を口実とした賃金抑制と労働条件の改悪を許さない！

私たちは本人の同意なき強制出向裁判をはじめとする全ての裁判勝利を勝ち取る！

私たちは全ての軍事行動と武器の使用、核開発に反対である！

「54歳原則出向」は30年前の死文化した条文を悪用し、職場から東海労組合員を放逐する組織破壊攻撃である。会社は職場から東海労組合員を放逐する口実とタイミングを狙っていた。コロナ禍は会社にとって経営問題になり今後の会社存続には相当の覚悟と社員管理の強化が狙いであろうことはコスト削減や効率化の推進を見れば明らかである。強引なやり方には必ず、反発が生まれるがそれを抑えるためには東海労の存在が一番の障害となっていたのだ。それはこの間の職場での私たちの闘いを見れば明らかであり、幾度となく押し寄せる東海労への賛同の波が日々、増大しているのではないか。会社はただ出向させるだけでなく分断し、諦めを持たせ、さらには出向先会社と一体となった懐柔策まで明らかになっている。

私たちは、出向先会社の就業規則が実際の勤務指定と労働時間を制限する労基法に抵触していないか、適切に守られているのかを拘りを持って闘ってきた。出向は会社の狙いによって一方的に実施されてきたが、諦めない粘り強い闘いによって、出向解消まで追い込んできた。そして、その闘いを更に前進させる。

岸田政権は安倍・菅政権を踏襲しながら改憲への道へ国民を引きずり込もうとしている。今夏の参議院選はその狙いを食い止めるために勝利するしかない。世界に目を向けても、北京パラリンピックを前に目を覆う事態が発生している。ロシア軍によるウクライナ軍事侵略である。オリンピック開催中は平和の輪の下、軍事行動を控えるという言葉は侵略者には通用しない。泥棒が誰なのかははっきりしててではないか。

第三者機関を活用した闘いは、団結力を固くし、知力、体力、諦めない力は裁判所の結果に左右されず、法廷と職場において如何なく発揮し、提訴する前に比べても何倍も強くなっている。東海労結成30年の組織力は今もなお発展しているのだ。

私たちは、今日までの成果を確認し、流されず諦めず全国の労働者と共に組織拡大を目指して闘うものである。そして私たちは勝利する。

以上宣言する。

2022年2月27日

J R 東海労働組合新幹線関西地方本部
第27回定期地本委員会